

大和川改修工事に伴う瓜破遺跡発掘調査の現地説明会 が開催されました。

- 日時 平成24年10月20日(土) 13:30~15:30
- 場所 大阪市平野区瓜破西3丁目 地先(大和川北岸)
- 主催 大阪市教育委員会

全国から考古学関係者や考古学に興味のある人、付近の人々約500人の参加があり、**弥生時代(前期~後期)の瓜破遺跡の集落の成り立ち等についての説明がありました。**

説明状況



説明会の状況



出土遺物展示場



遺跡見学

遺跡の特徴

弥生時代前期末頃(約2,300~2,400年前)の環濠の可能性のある大溝とそれ以降、何度も建て替えられた建物跡の柱穴(210基)、炉跡(7基)等の遺構が数多く見つかっています。

環濠: 集落の周囲を囲む溝

環濠の可能性のある大溝



遺構(大溝の上流側)



出土土器



中期後葉の井戸



前期末の炉跡

<参考>

弥生時代の環濠集落→王権形成が進み古墳時代に入ると、次第に解体された。

- ・水稲農耕の定着した弥生時代前期末以降に出現する(径70~150m)。
- ・北部九州から瀬戸内沿岸地域、大阪湾沿岸、東海へと東進波及。
- ・近畿では、中期以降に普及し、規模も大規模化(径300~400m)している。

弥生前期の環濠集落	弥生中期以降の環濠集落
・板付遺跡(福岡市)	・原の辻遺跡(長崎県老姥島南東部)
・百間川沢田遺跡(岡山県)	・吉野・里遺跡(佐賀県)
・中ノ池遺跡(香川県)	・経塚鼻遺跡(島根県)
・大岡遺跡(兵庫県)	・池上・曾根遺跡(泉市)
・安満遺跡(高槻市)	・神田の集落(大和郡山市)
(京都府旧峰山町)	・唐古・鍵遺跡(田原町)
	・太田・黒田遺跡(和歌山市)
	・朝日遺跡(愛知県清洲市)
	・神崎遺跡(神奈川県綾瀬市)
	・大塚・歳勝土遺跡(横浜市)

地層



- ・昭和14年 大和川河床で土器を採取(山本博氏) 学会で発表
- ・昭和14年・15年 大和川北岸にて発掘調査(今里幾次氏)
- ・昭和28年大和川北岸にて日本考古学会協会発掘調査(瓜破式土器と命名)
- ・平成6年~大和川南岸にて、弥生時代中期前半の環濠を伴う集落跡が見つかっています。

* 詳しくは、大阪市教育委員会のHPにのっています。 <http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/>